全議員行政視察報告

○日　時　　平成 28 年２月６日（月）～２月７日（火）
○研修先　　岩手県 紫波町議会 【議会への住民参加について】
【議会改革の取り組みについて】
岩手県 紫波町
【紫波中央駅前都市整備事業（オガールプロジェクト）について】

市議会では議会改革の一つとして、市民参加を進めている。その中でも今回は、「議会報告会について」「モニター制度について」を主として研修を実施した。また、牧之原市の重要課題である公共施設マネジメントについて、行政と民間が連携して開発を行い年間 90 万人が訪れる町となったオガールプロジェクトについて全議員での視察を実施した。

○ 議会への住民参加について

（１）議会報告会について

紫波町議会では、町内に109ある自治公民館の館長宛に開催依頼をし、その中から申し出のあった公民館で実施している。昨年は18会場で実施し、227人が参加。報告内容は、各委員会が主体となって実施しており、その後質疑・応答の時間を設けていた。その場で回答できない質問や、当局に対する質問などは、後日回答し公民館館長宛に送付しているとのことであった。

当市議会では、昨年の反省を踏まえ、議会報告会を改善していく予定である。従来の議会報告を主とするものではなく、あるテーマについての意見交換を主として実施し、より多くの市民からの声を聞いていく予定である。

（２）モニター制度について

平成26年度から制度を導入。現在は、２年間の任期でモニター８名が原則無償で活動している。モニターは公募で、議長からの依頼で委嘱することもある。

モニターの職務は、議会の会議を傍聴し意見を出すことであるが、現在までに意見が提出されたことはなく、制度はまだ軌道に乗っていないとのことであった。モニター制度を導入していく場合には、意見を提出しやすい仕組みを作ることが重要であり、当市議会においても今後の検討課題である。

○ 議会改革の取り組みについて

（１）通年議会について

平成23年から制度を導入。導入の効果としては、①常任委員会の活動が活発になったこと ②首長からの招集ではなく、議長の判断で開催することが可能となったこと ③市長による専決が減ったこと などが挙げられるとのことであった。

○ 紫波中央駅前都市整備事業（オガールプロジェクト）について

『オガール』とは紫波町の方言で成長を意味する「おがる」とフランス語で駅を意味する「ガール」を組み合わせてできた造語である。この事業は、紫波中央駅前に未利用町有地となっていた 10.7 ㌶の開発権を民間企業に付与し、その後の管理・運営まで行うことで、そこから生まれた収益を税収として維持管理費に充てることで公共の負担を実質ゼロにする循環型社会ができあがっているものです。

紫波中央駅前のオガールエリアには、図書館や子育て施設、飲食店、病院、産地直売所などが入る官民複合施設「オガールプラザ」をはじめ、ビジネスホテルや日本初のバレーボール専用アリーナ、チップ材を燃料に各施設へ電力を供給する「エネルギーステーション」、役場庁舎などが整備され、賑わいを見せている。

こういった事例はそのまま生かせるものではないが、独自性・個性を生かして進めていく重要性を認識できた。

紫波町議会での研修

日本初のバレーボール専用アリーナ